

Twitterのツイートの半分以上が英語—英語以外では日本語がトップで14%

by Robin Wauters on 2010年2月25日  **24 users**  **1 user**

パリのSemioCast社は各種のリアルタイム・ウェブ・サービスが企業ブランドに与える影響を調査しているが、このほど280万に上るTwitterツイートを意味論的、統計的に分析した結果を発表した。

これによると、ツイートのおよそ半分以上が英語だった。Twitterはアメリカ企業であり、英語圏に活動的なユーザーを最も多く持っているにもかかわらず、英語のシェアは昨年より25%も減少している。調査によれば、Twitterでの使用言語のトップ5は、英語、日本語、ポルトガル語、マレー語、スペイン語だった。

SemioCastでは、この調査は2月8日から10日にかけての48時間で収集したツイートに基づいたものだとしている。収集の目的は使用言語の統計を得ることで、同社の独自のツールによって分析された。このツールは非常に短いメッセージでもギリシャ語、ヘブライ語、中国語、韓国語、タミール語など41言語を正確に判定することができるという。

およそ50%のメッセージが英語であり、依然Twitterで一番多く利用されている言語となっている。しかしSemioCastでは2009年のTwitterの登録ユーザーの約3分の2が英語圏のユーザーであったのに比べて大幅に少ないシェアだと評している。SemioCastではまたアジア、ラテン・アメリカなどに対してTwitterの国際化が進んでいけば（現在、**いっそう多くの言語での利用が準備されている**）、英語のシェアはますます低下していくものと予測している。

英語以外の利用言語では日本語がトップの14%を占めたが、これはTwitterが2年も前から**この市場を開拓してきた**ことを考えれば当然かもしれない。日本語に続く3位の言語はポルトガル語でシェアは9%だった。Twitterのブラジルにおけるマーケティングは成果を収めているようだ。

またTwitterがマレーシアとインドネシアで現地の携帯キャリアと提携した成果もマレー語の増加となって現れている。マレー語（マレーシア語とインドネシア語が含まれる）は4位で6%を占めた。スペイン語は5位で4%だった。

6位から8位はヨーロッパの主要言語がランクインした。イタリア語、オランダ語、ドイツ語が、それぞれ1%から2%程度のシェアを占めている。フランス語は1%をわずかに切る程度のシェアだった。

ちなみに、Twitterは今週始めに**毎日5千万ツイートを処理している**と発表したばかりだ。それからすると300万ツイートというのはそれほど大きな標本ではないかもしれない。しかしそれでも**公開タイムライン**の分析としては有用であり、非常に多くのユーザーが英語以外の言語でTwitterを毎日利用していることがはっきりした。

[[原文へ](#)]

(翻訳: [滑川海彦/namekawa01](#))